

## 活動団体紹介4

## EM倶楽部 / 湖西

EM倶楽部/湖西は「EMダンゴ・米とぎ汁EM発酵液」を活用した川や池等の保全・水質改善等の環境活動、生ゴミの優良堆肥化やたぐら廃油の石鹸化などのエコ活動、無農薬・有機栽培による食の安全などの農業活動をしている団体です。

「環境のことを考えられる大人になってほしい」と地域の学校での環境教育にも協力しています。

### 「浜名川」の水質浄化活動

海の日、メンバーが手作りした「EMダンゴ」と「米とぎ汁EM発酵液」を、浜名湖にそそぐ浜名川に投入しています。EMダンゴ作りや投入には地元の幼稚園児も協力してくれ、今年で10回目になります。

### EMダンゴ

EM菌（有用微生物群）と米ぬか等を混ぜて発酵・乾燥させたEMボカシと土を練り、丸めて熟成・発酵させたものです。

発酵してEM菌が増え、表面が白い菌糸で覆われたら乾燥させます。土に含まれていた菌の種類により、写真のような青色なども見られます。

川に投入することで、底に沈んだヘドロを分解、微生物の力で生態系に負荷をかけない水環境浄化をする土ダンゴです。

### 浜名湖ボカシの商品化

湖岸に打ち上げられて困りものになっているアマモを活用して、EMボカシにアマモを加えた農業専用「浜名湖ボカシ」の商品化をすすめています。

成分についての詳しい分析はこれからですが、今までのEMボカシを畑に使うよりも少なく済むのではという期待をしています。ただし、コストが高いため、プランター栽培向けにPRしていくことを検討しています。



浜名湖にそそぐ「浜名川」



EMダンゴ



浜名湖ボカシ

作成中の製品ラベル

### 環境省レッドリスト・絶滅危惧II類(VU) のミスオオバコ



ミスオオバコの花

夏から秋にかけて、直径3cmくらいの淡いピンクがかかった白い花が咲き、秋に結実して枯れる沈水植物です。EMダンゴを投入している水路でも2008年ころから観察することができるようになりました。

かつてミスオオバコは、水田における主要な雑草の一つでしたが、水田の環境変化やため池の埋め立て、水路のコンクリート化、水質汚濁などにより、数は激減しています。

\* 観察できる場所等については、お問合せください。

【連絡先】

E-mail: kian@amber.plala.or.jp ☎090-2136-5925 足田さん(代表)

### 浜名湖アマモ・アオサ活用プロジェクト報告



夏に湖岸で回収したアマモを堆肥にして、10月に種まきや苗を植え、1月に野菜の収穫をしました。台風の影響で種まきの時期が遅かったため、例年に比べて少し小さめの大根でしたが、カブやブロッコリーなど多くの野菜が収穫できました。

詳しくはブログをご覧ください。 <http://kankyo.hamazo.tv/>



## 浜名湖環境保全団体情報誌 第31号

# はまなご環境通信

発行/静岡県(はまなご環境ネットワーク)

発行日/平成31年3月10日

事務局/NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 TEL053-458-3480

Eメール info@shizuoka-t.net

昨年10月に発行した「はまなご環境通信」に続き、浜名湖の環境に関する活動をする4団体の紹介と、はまなご環境ネットワークのアマモプロジェクトの様子を紹介をします。

## 活動団体紹介1

## 浜名漁業協同組合

浜名漁業協同組合は、明治36年に漁業会を設立、昭和40年に浜名湖周辺の14漁業協同組合が合併、舞阪漁港向かいの本所の他に新居・鷺津・入出・気賀・村瀬・白洲・雄踏の7つの支所があります。

シラス漁とアサリ漁が2大産業で、水産物の8割を占めています。

### アサリの減少にはさまざまな要因が

近年、全国的に問題となっているアサリの減少。浜名湖でも水揚げ量が落ち込み、2018年は過去3番目の低水準となりました。

クロダイやエイ・ツメタガイによる食害、台風の直撃や高水温、アオサの大量発生等のさまざまな要因があり、砂が流されて粘土質の湖底にアサリが潜れなくなったことや浜名湖の水質浄化が進み、とてもきれいになった水の栄養が不足していることも影響していると考えられています。(栄養が足りないことで、プランクトンの発生が減少し、それを餌にする小動物(生物)が少なくなってきました)



アサリのカラを吐き出すクロダイ

### 資源保護活動

アサリ保護のため、アサリ稚貝の天然採集袋(ケアシエル)、魚からアサリを守るためのネットの設置などの活動を漁師が協力して行っています。

また、密漁のパトロールや潮干狩りのルールなど、資源保護の啓発もしています。



湖底にネットを張る活動

### えんばい朝市・商品開発

4~7月の第3日曜日に、舞阪漁港で「えんばい朝市」を開催しています。毎回大勢の人が新鮮な水産物を求めてにぎわい「生シラス」は特に人気があります。

1820年に養殖が始まったとされる浜名湖ノリ。養殖開始から200周年となる2020年に向けて、新商品の開発を浜名商工会と協力して企画しています。



鮮やかな緑色をしたノリ

### ノコギリガザミ(ドウマン)を農林水産省GI制度に登録申請



ノコギリガザミ(ドウマン)

ノコギリガザミは、波の静かな内湾や河口の汽水域などに生息し、日本では沖縄と四国の四万十川、浜名湖でしか漁獲されません。胴体が丸いので胴丸と言われたのがなまって、浜名湖ではドウマンと言われています。

漁協では、他の産品と差別化される上、漁業者側にも貴重な資源として意識付けされることで資源保護にもつながると考え、国が地域の農水産物や食品をブランドとして保護する「地理的表示(GI)保護制度」の対象に「浜名湖ドウマン」として2018年4月に登録申請しました。

【連絡先】

E-mail: hamanagyokyo@ai.tnc.ne.jp ☎053-592-2911

ホームページアドレス <http://www.hamanagyokyo.or.jp/>

## 活動団体紹介2

## わらの会

わらの会は、平成15年から活動している住民グループで、10人程のメンバーが三ヶ日中学校の生徒や三ヶ日青年の家、三ヶ日地域の方々、企業と協力して、地域活性化や環境保全に関する活動をしています。

浜名湖の奥にある猪鼻湖の水質浄化をはじめ、浜名湖に親しむための海洋活動の援助や三ヶ日町が元気になるための活動に取り組んでいる団体です。

### 「水質浄化」・・・そしてオリジナル商品化へ

浜名湖の水質浄化を目指し、前橋総合技術ビジネス専門学校の小島校長（前：群馬工業高等専門学校特命教授）の協力で、「炭・腐葉土・鉄」を混ぜたもの（宝島BOX）をイカダに吊るしています。

宝島BOXは、鉄分と腐葉土が餌になるプランクトンを増殖して、カキを呼び込み表面に定着させるもので、水草の成長促進の効果があるため、アマモを増やすことも期待されます。

カキ1個は1日に200ℓ（風呂桶1杯）の水を浄化することができます。カキを増やすことが水質浄化につながるというストーリーの発信と三ヶ日のカキを特産にして、カキを使った「カキカレー」のオリジナル商品化を目指しています。

商品化は、企業との連携やクラウドファンディングの活用も視野に入れて、着実に進行しています。



三ヶ日青年の家マリーナ内のイカダ



カキの赤ちゃんたち

### わらの会 × 三ヶ日中学校 × 三ヶ日青年の家

三ヶ日中学校の総合的な学習時間のテーマの「アサリ・アマモ・ヨシ」を使って猪鼻湖の水質浄化や「カキを使った食品開発で三ヶ日を活性化」などについて、三ヶ日青年の家と協力して取り組んでいます。

三ヶ日中学校では、三中祭を浜名湖サービスエリアや三ヶ日中学校の会場を使い、猪鼻湖の水質浄化等の学習内容を紹介する情報発信をしました。

### 三ヶ日みかんの力

三ヶ日と言えば「三ヶ日みかん」、地元では猪鼻湖のカキがおいしいのは、摘果したみかんの養分が地面から浜名湖へ流れ込み、カキの生育に良い影響を与えているだろうと言われています。

### さまざまな団体と連携して地域の活性化・・・そして浜名湖の元気！！



リサイクル軍手



この軍手は、料金所スタッフの制服をリサイクルしたものです！！

三ヶ日町を通る東名高速道路を運営する「NEXCO中日本」は、企業のCSR活動として「わらの会」の水質検査に協力したり、社員の制服をリサイクルした毛布や手袋を三ヶ日町の小中学校や三ヶ日青年の家に寄付しています。また、完成したオリジナル商品を、高速道路で販売してくれることにもなっていて、三ヶ日地域では多様な団体が浜名湖の環境を守り・活かすための活動に関わっています。

【連絡先】

☎090-1095-4748 夏目さん（わらの会事務局）

## 活動団体紹介3

## 浜松里山竹クラブ

浜松里山竹クラブは、静岡県西部の里山で竹林整備・放置竹林対策・竹資源の有効利用を目的とした活動をする非営利団体です。

竹林の適正な管理のため、地域の中で竹を資源化し利活用を図るネットワークの構築、「竹」をテーマに、循環型地域産業の創出を目指しています。

### 竹林整備・竹林管理現地講習会

放置されることで土砂崩れ等の災害の誘発や農地への浸食が懸念され、里山の生態系に影響を与えたり、景観を損ねる竹林の整備をしています。

メンバーが自ら整備をする他にも、竹林の所有者に管理の仕方を指導したり、竹林で伐採した竹を竹チップにするための「粉碎機」の貸出しをしています。

竹チップは竹林に散布したり、肥料や雑草対策等に活用もでき、適正な管理をすることで、竹林の美しい景観を取り戻し、おいしいタケノコがたくさん採れるようになります。

また、竹林整備にボランティアとして参加したい方の募集も行い、講習会を開催しています。

### イベント開催

竹に親しんでもらうため、竹林でのイベントや竹を使ったイベントを開催し、穂先タケノコの収穫、流しそうめん、竹灯籠や門松作りなど、四季折々のメニューを提供し、子どもたちへの環境教育にも役立っています。

### 竹活用の商品開発・販売

補助金に頼らず自らの力で稼ぎ、事業を継続していくための取り組みに力を入れ、家畜の飼料などにも活用してきましたが、昨年より竹林の整備で伐採した竹を浜名湖のカキ棚に使用したり、湖西市の養豚場では伐採した竹をチップにしたものを使用して養豚場からの排水浄化に役立っています。

また、これまでは焼却処分していた古くなったカキ棚の竹をチップ化して堆肥として活用する取り組みを農家と検討中です。



カキ棚に使用するため切りそろえられた竹



整備後の竹林



チップ化された竹

### 浜名湖のカキ棚に竹を活用



浜名湖のカキ棚

浜名湖でカキを育てる舞阪町養カキ組合は、これまで県外から購入していたカキ棚の竹を「浜松里山竹クラブ」から調達することになりました。

浜松里山竹クラブにとっては、荒廃した竹林の整備で出た竹の有効活用先として、養カキ組合としては地元で安く手に入る供給先として、お互いウィンウィンの関係となっています。

【連絡先】

E-mail: hamamatsu.sato.take@gmail.com 大石さん（代表）  
ホームページアドレス <https://satoyamatakeclub.jimdo.com/>